〈論　文〉

否定表現の談話分析

── 英語の歌詞をデータとして ──

山　田　政　通

要　旨

本稿では，英語歌詞に使われた否定表現の特徴を談話分析等の多角的な視点から分析した。まず，否定表現の量的分析からは，NOT，NO，NEVER が代表的な否定辞で否定辞使用全体の 9 割程を占めることが分かった。一方，否定辞を含む慣用句や否定と心理動詞の共起に関しては特に頻度が高い傾向はなかった。その後は，本論の主眼である否定表現の談話分析の結果を詳説した。データ中に頻繁に観察された否定のコントラスト機能を新・旧情報の観点から例証し，次に否定表現の使用を支える背景知識（スキーマとスクリプト）との深い関連を確認した。最後に否定の連続使用が評価機能の強化に繋がることを明らかにした。

本稿は，日本語歌詞中の否定表現を分析した山田（2013）と対をなす論考であり，この二つの分析結果からいくつか示唆に富む比較が可能となった。類似点としては，(1) 否定のコントラスト機能の例が多数観察できたこと，(2) メタ言語否定の明確な実例がなかったこと，さらに (3) 否定表現と背景知識との関係性では，スキーマの例は多かったがスクリプトの例が少なかったことが挙げられる。一方，相違点としては，英語の歌詞の特徴として，(1) 否定辞を含む慣用句が少なかったこと，(2) 否定と心理動詞との間には顕著な共起関係は観察されなかったこと，そして (3) 否定の連続使用が多く見られたことが確認された。以上の結果を踏まえ，今後さらに日英語における否定表現の働きの全体像に迫りたい。

キーワード：否定表現，英語歌詞，談話分析，コントラスト機能，背景知識

目　次

1. はじめに
2. 否定表現とデータ
　2.1　否定表現の定義と特徴
　2.2　データとその特徴
3. 否定表現の量的分析
　3.1　否定表現の分布
　3.2　否定辞を含む慣用句
　3.3　否定と心理動詞の共起
4. 否定表現の談話分析
　4.1　否定のコントラスト機能
　4.2　否定と背景知識：スキーマとスクリプト
　4.3　否定の連続使用
5. 結語
参考文献
資料

1. はじめに

本稿は，英語の歌詞に用いられた否定表現を談話分析等の視点から多角的に分析し，歌詞の中で否定表現が果たす機能を明らかにすることを目的とする。一般に否定表現は，肯定文と比較して伝達情報が少ないとされるが，一概にそうとは言えず，有標な言語形式であるが故に談話上特別な機能を担うことがある。

データとしては，日本でもよく知られた英語の歌（主にアメリカ，イギリス）を 100 曲選定し，その歌詞で用いられた否定表現が歌詞の中で果たしている談話機能を探った。具体的には，有標と無標の差，体系化された背景知識（スキーマ，スクリプト等）の関与，ナラティブ構造と働き，否定の連続使用などの観点から，否定表現の特徴と機能を論じた。分析方法

は，定性的な談話分析が中心となるが，否定表現の出現回数や分布に関する定量的な分析結果も加味し，否定表現の全体像に迫るように心がけた。

本稿は，日本語の歌詞 100 曲を分析した山田（2013）と対をなす論考で，両稿の分析結果を比較することで日英語の差異と共通点を確認した。また本稿では，他のジャンルで使用された否定表現の分析との比較も随時示した。具体的には，(1) Yamada（2003）は日本語の口述物語（oral narrative），(2) 山田（2007）は英語の映画スクリプト，(3) 山田（2010a&b）は日本語の小説をデータとした否定表現の分析であった。

本論の流れは以下の通りである。次の第 2 節では，英語の否定表現の特徴を確認し，その後データとして使用する歌詞について解説をする。第 3 節では否定表現の量的分析を示す。多様な否定表現の出現頻度を概観した後，否定辞を含む慣用句の実例を示し，最後に否定と心理動詞の共起に関する分析を紹介する。そして第 4 節は否定表現の談話分析の結果を詳説する。まず否定のコントラスト機能を解説し，次に否定表現の使用を支える背景知識（スキーマとスクリプト）との関連性を確認し，最後に否定の連続使用の効果等を吟味する。第 5 節の結語では，本稿全体のまとめと今後の課題を述べる。

2. 否定表現とデータ

2.1　否定表現の定義と特徴

本稿の分析対象となる否定表現は，英語の代表的な否定辞である NOT と NO，さらに NO-WORD（no や not と融合した語：nothing や never など）を含む表現を指すこととする。

有標理論の観点から肯定文と否定文を比較すると，肯定文は無標であり，言語習得も比較的早く，使用頻度も高く，また使用上の制限も少ないなどの特徴がある。一方，否定文は有標であり，言語習得，使用頻度，使

用制限などにおいて肯定文とは正反対の特徴を持つ。特に重要なのは，談話中に用いられる否定文にも使用制限があり，有標の特徴を示すという点である。これは，否定文と肯定文の非対称性（the asymmetrical view of negation and affirmation，Horn 1989：45ff）という見解に基づいている。具体的には，談話中で否定文を適切に使用するためには，その否定文に対応する肯定内容がある種の「前提」として必要であるということである。一方，肯定文の使用には通常そのような前提は必要がないという点で無標であると言える。

否定発話が前提として必要とする肯定内容は，テキスト上で前述されているか，またはコンテキスト上想定されていなければならない。したがって，否定発話の理解には，言語情報をもたらすテキストと言語外情報を提供するコンテキストの両方が不可欠である。つまり，談話の中で言語表現を観察する談話分析の方法が有効となる。

2.2　データとその特徴

本稿で分析した英語の歌は，1960 年代から 2000 年程の間にヒットした 100 曲で，著者が親しんできた曲を選んだ（山田 2013 でも，同様に日本語の歌詞 100 曲を分析した）。それは，そのような曲であれば，おのずと歌の時代背景に関する知識が著者にあり，歌詞の解釈がより正確にできると考えたからである。また，ヒット曲に限定したのは，著者自身の個人的な嗜好を越え，多くの人々に親しまれ，人々の記憶の中に長く存在し，大衆文化の一部となっているような一般性の高い歌を対象としたかったからである。

具体的には以下の 3 つの歌集から選曲した（『書名』，発行人・編集者，発行年，出版社）：

① 『洋楽超定番ソングブック 100』草野夏矢，2010 年，シンコー

ミュージック・エンターテイメント

② 『50・60年代オールディーズ名曲全集（Oldies '50s-'60s Best Collection）』松山祐士，2010年，ドレミ楽譜出版社

③ 『70・80年代ニュー・オールディーズ名曲全集（New Oldies '70s-'80s Best Collection）』松山祐士，2010年，ドレミ楽譜出版社

①は1950年代から2000年代までの英語のヒットソング100曲を集めた歌集で，②と③は，当該年代のヒット曲をそれぞれ約100曲収録した歌集である（ただし，①の曲との重複が多数ある）。その中から自分が最も親しんできた曲を100曲選んだ（その他，歌詞のチェックや内容理解のために参考にした書籍等は，参考文献に掲載した）。

以下で本稿のデータとなる歌詞に関する留意点をまとめて述べる：

・歌詞は，「連」（stanza）が基本単位となり，複数の連から構成される。各連は，数行（通例4行以上）からなるまとまりを示す単位である。

・歌詞の大きな特徴は，繰り返しである。歌詞を構成する各連は，類似の構造を持ち，使われる言葉もキーワード・キーフレーズなど重要な言葉ほど繰り返される傾向が高い。また，「リフレーン（refrain）」として数行全体が繰り返されることも多い。歌詞は全体の語数がそれほど多くないので，繰り返しの効果がより鮮明になる。

・歌詞の解釈は，必ずしも一義的に決まらない部分がある。歌詞に使用された言葉に出来るだけ忠実に解釈するように務めたが，個人的な偏りがあるかもしれない。また，歌詞の要旨やメーンテーマ等の確定には，引用部分だけでなく，歌詞全体を見ないと正確にできない場合がある。本稿での解釈等に疑問がある場合は，是非歌詞全体にあたっていただきたい。

・歌詞は，そのほとんどが独白体であった。したがって今回取り上げ

る歌詞の特徴は，独白体の言葉づかいが多いということである。

・本稿は，歌詞自体を分析の主対象とするので，リズムや音調などの音楽的な部分には必要最小限にしか触れない。

・著作権への配慮から，引用は必要最小限に留めるように心がけた。

3. 否定表現の量的分析

ここでは，まず英語の否定表現の分布状況を数値で示し，その後否定表現の特徴としてよく指摘される 2 点，つまり否定辞を含む慣用句と心理動詞との共起について，その分析結果を提示する。

尚，既述のように，歌詞にはリフレーンが頻繁に出てくるが，以下の分析では，リフレーン部分は初出部分のみを分析対象とし，それ以降の繰り返し部分は対象外とした。これは，リフレーンが多数あると，その部分の言語的特徴が歌詞全体の傾向を圧倒し，バランスを欠く分析になる危険があると考えた為である。

3.1 否定表現の分布

英語の否定表現は，使用される否定辞により NOT，NO，NO-WORD の 3 つに分類できる。NO-WORD とは，never, nothing, nowhere などで元来 no(t) と他の語が融合してできた否定辞である（詳細は下記の表 4 を参照のこと）。

表 1　否定辞の内訳と使用回数

	否定辞	使用回数（%）
1	NOT	192（53.78%）
2	NO	80（22.41%）
3	NO-WORD	85（23.81%）
	合　計	357（100%）

NOT が全体の半数以上（53.78%）を占める一方，NO はその約半分（22.41%）の使用回数であった。この二つで全体の 4 分の 3（76.19%）を占め，残りが NO-WORD の使用であった。英語否定辞の代表格は NOT と NO で，後述の NEVER（40 回，11.20%）がそれに続き，この 3 つで全体の約 9 割（87.39%）となった。

(1)　NOT の内訳

NOT には縮約形の N'T があり，使用頻度も NOT の 4.8 倍で全体の 8 割以上を占め，圧倒的に高かった。

表 2　NOT の内訳と使用回数

	否定辞	使用回数（%）
1	NOT	33（17.19%）
2	N'T[(1)]	159（82.81%）
	合　計	192（100%）

同様に，英語の映画スクリプトをデータとした山田（2007：45）でも，NOT の総数 283 例中，縮約形の N'T は 212 例であり，全体の 74.91％を占めていた。Mazzon（2004：105）は，NOT の縮約形は 17 世紀の終わりにやっと綴りの上で現れる現象で，それほど昔からの現象ではないと指摘している。実際現在でも NOT の縮約形は学術論文や公文書では避けられる傾向にあるが，歌詞や映画のスクリプトでは，縮約形が圧倒的に優勢となっている。

(2)　NO の内訳

NO については，文否定や句否定として名詞に付随して使用される用法と，疑問などに対する返答として単独で用いる用法があるが，圧倒的に前者の用法が多く見られた。

表 3　NO の内訳と使用回数

	否定辞	使用回数（%）
1	文・句否定の NO	70（87.50%）
2	単独の NO	10（12.50%）
	合　計	80（100%）

映画のスクリプトを分析した山田（2007：45）では，単独の NO（no-response to Q）は全体の 58.10%と高かった。これは，映画のスクリプトの大部分は対話（dialogue）から構成されていて，相手の疑問や働きかけ（依頼，注文，命令など）への反応が多いからであろう。一方，歌詞は，基本的に独白（monologue）であるため，単独用法が少なかったと考えられる。

(3)　NO-WORD の内訳

前述のように NO-WORD とは，以下の表にあるように no や not と他の語が融合してできた否定語である。以下の表は，その出現頻度順に上位から示す。

表 4　NO-WORD の内訳と使用回数

	否定辞	使用回数（%）
1	NEVER	40（47.06%）
2	NOTHING	17（20.00%）
3	NO ONE	11（12.94%）
4	NOWHERE	10（11.76%）
5	NOBODY	4（ 4.71%）
6	NOR	2（ 2.35%）
7	NONE	1（ 1.18%）
8	NEITHER	0
	合　計	85（100%）

NEVER の使用回数が最も多く，全体の 47.06％を占める。その後には，NOTHING，NO ONE，NOWHERE が続く。NO ONE と NOBODY を比較すると，前者が 11 回で圧倒的に多く，後者が 4 回であった。*OALD* では，書き言葉の英語では，「NO ONE が NOBODY より頻繁である（“**No one** is much more common than **nobody** in written English”: p. 1056）」と述べられているが，歌詞は歌われるものであるが元々は書き言葉であると考えると，この記述に合致する。一方，Biber et al.（1999：352）は，会話では NO ONE より NOBODY が多いとしているが，これは英語の映画スクリプトを分析した山田（2007）の結果（数は少ないが，NOBODY 6 回，NO ONE 1 回）と合致する。

本稿の分析結果と上述の山田（2007）の結果を比較すると，NEVER の使用頻度に大きな違いがあった。本稿では 40 回で，否定辞使用全体の 11.20％を占めるのに比べ，映画では 10 回（2.62％）と約 4 分の 1 程度であった。NEVER は，強調の効果があり，メッセージが凝縮された歌詞との相性がよいのではないかと思われる（*OALD*, p. 1046, NEVER =2 “used to emphasize a negative statement instead of ‘not’”）。

今回の分析では，NEITHER の使用がなかったが，これは山田（2007）でも同様であった。この語の使用は相当限定されているようだ（ただし，*LDOCE* では NEITHER は最も出現頻度の高い 3000 語の中に含まれている）。

3.2　否定辞を含む慣用句

日本語の歌詞を分析した山田（2013：19）では，否定辞を含む慣用句が 37 例確認された。これは否定表現全体（271 例）の 13.65％に相当した。本稿でも否定表現を含む慣用句を調査したが，21 例で全体（357 例）の 5.88％で，日本語歌詞の半分以下の割合であった。日本語に比べると英語の否定表現はその種類や使用頻度が限られているようだ。以下では，その

一部を紹介する。（歌詞情報は，例文末のカッコ内にタイトルと発表年だけを示す。作詞・作曲者やアーティストなどの詳細は本稿末の資料を参照のこと。）

(1) no more than = nothing more than：only の意味で用いる

1 I was no more than a boy（The Boxer, 1968）

2 And the different kind of love she thought she'd found
Was nothing more than sawdust and some glitter（Don't Cry Out Loud, 1976）

(2) Why don't you / we ~?：修辞疑問で勧誘や提案を表す

3 Desperado, why don't you come to your senses?（Desperado, 1973）

4 She said, "Why don't we both just sleep on it tonight?（Fifty Ways to Leave Your Lover, 1975）

(3) Won't you ~?：依頼，勧誘などを表す

5 Won't you please, please help me（Help!, 1965）

6 Whenever you're in trouble, won't you stand by me（Stand by Me, 1961）

(4) can't help but（do）：～するのは仕方ない

7 It cannot help but grow old（We're All Alone, 1976）

(5) no bed of roses：楽なことばかりではない

8 But it's been no bed of roses（We Are the Champions, 1977）

3.3 否定と心理動詞の共起

英語の否定表現は，心理動詞（mental verbs）と頻繁に共起するという指摘がある（Tottie 1991：38-43，Biber et al. 1999：159 など）。英語の KNOW, THINK, BELIEVE, UNDERSTAND, FORGET, REMEMBER な

どがその代表例で，認知状態を示す動詞である。Yamada（2003：407）の日本語による体験談の分析では，特に「分かる」（英語の ‘understand’ に相当）と「知る」（‘know’）に否定との共起が多いことが報告されている。

本稿の歌詞のデータに見られた否定表現と心理動詞の共起の分析結果をまとめたのが，表 5 である。7 つの心理動詞が確認できた（出現総数の多い順に掲げた）。

表 5　否定辞と心理動詞の共起

	心理動詞	否定形	肯定形	総使用回数
1	KNOW	9	98	107
2	THINK	4	16	20
3	BELIEVE	1	17	18
4	REMEMBER	1	16	17
5	UNDERSTAND	2	4	6
6	FORGET	0	5	5

上記の表からすると，KNOW の否定形使用数が多いが，それでも総使用数（107 回）中 9 回で全体の 1 割にも満たない。次の THINK は，総使用回数（20 回）に対し否定形が 4 回あり，2 割の割合である。一方，Halliday（1993：2）は，自然言語では肯定と否定の割合は，概ね 7 対 1 であると指摘している。それに照らしてみると，上記の 2 例で特に共起が多いとは言えないであろう（唯一 UNDERSTAND の否定形の割合が多いが，総使用数が少なく確実ではない）。

既述のように，Biber et al.（1999：159）は，心理動詞と否定辞の共起が，会話体の中で特に頻繁であると指摘している（ただし，具体的な数字は上げていない）。本稿では，否定と心理動詞の共起の傾向は観察できなかったが，Biber et al. の指摘の通り，会話体でないことが関与しているかもしれない。ただし，日本語の歌詞を分析した山田（2013：21-22）で

は，日本語の心理動詞の「忘れる」「知る」「分かる」の 3 つの否定形の出現率が 5 割を超えていた。同じ心理動詞であっても，否定との共起については，日英語で違いがありそうだが，詳細な分析は今後の課題としたい。

4. 否定表現の談話分析

ここでは，談話分析の手法を用いて，歌詞のコンテキスト情報を考慮しながら，否定表現を質的に分析した結果を示す。否定表現のコントラスト機能（4.1）を最初に取り上げ，次にスキーマやスクリプトなどの背景知識と否定表現の関係（4.2），そして最後に否定表現の連続使用（4.3）の例を検証する。

4.1　否定のコントラスト機能

否定表現は談話中で多様な機能を果たすが，Yamada（2003：396-8）はその中でもコントラスト機能が最も基本的な機能であると結論づけた（Labov 1972，Givón 1978，Ford 1993 などにも，否定文が持つコントラスト機能への言及がある）。ここでは，データ中によく見られた“not A,（but）B”と“A,（but）not B”という二つの対比形式を中心に検証する。

(1)　Not A,（but）B

データ中で最も頻繁にみられたコントラスト機能を果たす否定表現は，“not A,（but）B”の形式で 16 例が確認された。この形式は A と B を対比させ，A を否定し，B であることを明言し，それによりローカルな結束性を作りだす働きがある。談話上大切なのは，A の部分はコンテキスト上旧情報にあたり，B の部分は新情報に相当するということである。通例 A の情報は，コンテキストから予測・期待されていることである。

英語の書き言葉中の否定文を分析した Pagano（1991：50）は，「否定

－訂正」（denial-correction［*'x is not y, x is z'*］）という連続が最も頻繁に用いられた形式の一つであると述べている。Pagano は後半部分を訂正（correction）と呼んでいるが，Yamada（2003：194-5）が指摘しているように，解説（clarification）や 説明（explanation）と呼ぶ方が適切である場合がある。前半の否定だけでは，実際に何がどうなのか不明のままなので，後半にその訂正として説明の発話が続くことが多い。Leech（1983）の「否定の非情報性の原理」（Principle of Negative Uninformativeness）の観点からすると，「～でない」という否定発話は情報の量が不十分なので，その後に説明情報が続くことになる。また，McCawley（1993：190）も英語“not A but B”という表現形式に注目し，その談話上の機能を基に「コントラスト否定」（contrastive negation）と命名している。

以下，代表的な３つ例を詳説する。最初の例では，３行目に否定が現れるが，その直後の４行目に訂正として説明が続く。引用する第Ⅲ連では，窓際で雨を見ながら落ち込んでいる少女（Melody）を歌い手がやさしく慰める部分である。（以下の例示では，「連」はローマ数字（Ⅰ，Ⅱ～）で示し，「行」はアラビア数字（1, 2, 3～）で引用歌詞の左側に記す。また，分析対象となる否定表現は<u>下線</u>で示し，その否定表現（とそれに関連する部分）を含む行には左端に矢印（⇒）を付す。）

1【Melody Fair, 1969】

Ⅲ　1　Who is the girl at the window pane

　　2　Watching the rain falling down

⇒　3　Melody, life <u>isn't</u> like the rain

⇒　4　It's just like a merry-go-round

3，4 行目の構造は，

　3′ life is <u>not</u> like A（=the rain），

4′ life is like B（=a merry-go-round）

となっていて，3′ の A にあたる“the rain”は，2 行目に初出しているので旧情報（定冠詞“the”が付与されていることに注目のこと）であり，4′ の B は“a merry-go-round”で不定冠詞の“a”を伴い，新情報となっている。3 行目で「人生は，雨降りのような（陰鬱な）ものではない」と否定し，その後 4 行目で「メリーゴーラウンドのような（楽しい）ものだ」と like を用いた直喩表現（simile）で少女にやさしく語り掛けている。否定－訂正（説明）のパターンを作り，雨とメリーゴーラウンドを反義語のペアのように印象深く対比させている。

次の歌は，都会へ出てきたもののなかなか思い通りにならない若者の心を歌った成長物語である。引用した第Ⅲ連は，仕事を求めるが，職にありつけない窮状を歌っている。ここでは，“I get no A, (I get) just B”という構造で，A と B を対比させている。3 行目の A にあたる“offers”は，2 行目の“job”と関連し「仕事の口」を指し，文脈上旧情報にあたる。

2【The Boxer, 1968】

Ⅲ 1 Asking only workman's wages
2 I come looking for a job
⇒ 3 But I get <u>no</u> offers
⇒ 4 Just a come-on from the whores
5 On Seventh Avenue
6 I do declare
7 There were times when I was so lonesome
8 I took some comfort there

3 行目の否定表現は，2 行目で述べられている職探しに来たのにうまくい

かなかったと語っている。この否定表現の後に，4 行目の肯定表現が解説として続き，仕事の誘いはなかったが，娼婦からの誘いはあったと，二つのものを自嘲気味に（自虐的な体験を通じて）対比している（さらに，6 行目以降で後者の誘いに慰められたことが何度かあったと告白している）。

最後の例は，恋人と分かれようとして悩んでいる男性とそれに助言をする女性のやり取りをコミカルに歌う曲である。引用した第Ⅲ連は，女性から男性たちへの助言が，文末の脚韻の語呂合わせ（1 行目の back-Jack，2 行目の plan-Stan，3 行目の coy-Roy，その後も 5 行目に bus-Gus，7 行目に key-Lee と続く）と共に矢継ぎ早に調子よく響く。3 行目と 4 行目で，You don't do A,（You）do B という形で，A と B を対比させている。

3【Fifty Ways to Leave Your Lover, 1975】

Ⅲ　1　You just slip out the back, Jack

　　2　Make a new plan, Stan

⇒　3　You <u>don't</u> need to be coy, Roy

⇒　4　Just get yourself free

3 行目は，行末の語（coy）と韻を踏むように人名（Roy）を追加して，リズミカルな歌詞となっている。3，4 行目は内容上ペアを構成し，Roy に向けての女性からの呼掛けで，「恥ずかしがる必要はない，自分を解放したら」とひとまとまりの助言となっている。

(2)　A,（but）not B

否定のコントラスト機能が現れる二つ目のパターンは，(1) の逆パターンで肯定表現の後に，否定表現が続く形式である。初めに「A である」と述べ，その後「B ではない」と補足説明を対比の形で示す。10 例が確認されたが，代表例を二つ紹介する。最初の例は，歌の第Ⅰ連である。と

にかく大きな声で力強く歌おうと歌い手が皆を誘っている部分である。

4【Sing, 1971】

Ⅰ　1　Sing, sing a song
　　2　Sing out loud
　　3　Sing out strong
⇒　4　Sing of good things, <u>not</u> bad
⇒　5　Sing of happy, <u>not</u> sad

4 行目では，good と対比させで bad を否定し，「悪いことではなく，いいことを歌おう」と呼びかけている。同様に，5 行目では，happy と対比させて sad を否定し，「悲しいことではなく，うれしいことを歌おう」と述べている。どちらの場合も，反義語ペアを対比させて，マイナス評価の語を補足的に後から否定し，プラス評価の語をより際立たせている。

次の例は，前例とは逆に歌詞の最後（第Ⅷ連）に出てくる否定の例である。成功を夢見て大都市（ロサンゼルス）に集まり，その街の虜になる人々の苦しみや悲しみをテーマにした歌詞である。

5【Hotel California, 1976】

Ⅷ　1　Last thing I remember, I was
　　2　Running for the door
　　3　I had to find the passage back
　　4　To the place I was before
　　5　“Relax” said the night man
　　6　“We are programmed to receive
⇒　7　You can check out any time you like
⇒　8　But you can <u>never</u> leave”

5 行目以降は，ホテルの夜警の言葉であるが，7，8 行目では，“You can do A, but you can never do B”というパターンで，A と B を対比させている。「一時的に外出することはできるが，この場を退去することは決してできない」と語る。特に後半の B の否定には，not より強意の never が使用され，一度ここに入ったら，二度と抜け出さないことが強調され，終身囚われの身になるとことが暗示されている。この部分は，歌詞全体の締め括りにあたり，冒頭で紹介したこの歌全体のテーマ（夢見て大都市に集まるが挫折し，結局その街の虜になる）と深く関連し，全体的評価[(2)] と直結している重要な否定文である。

(3)　メタ言語否定[(3)]

否定のコントラスト機能の代表例の一つとして，しばしばメタ言語否定が取り上げられるが，本稿のデータにはその例は，見つからなかった（同様に，山田（2007）でも皆無であった）。加藤（2019）は，アメリカの言語学者 Horn の否定研究の紹介の為に書かれた研究書であるが，第 5 章で「メタ言語否定」を通常の記述的否定と対比させながら詳細に扱っている。これは否定研究の専門家である Horn の研究課題に沿った妥当な扱いであろうが，否定表現の使用状況の実態から見ると，メタ言語否定の使用領域はかなり限定的であると思われる（山田 2004 参照）。

4.2　否定と背景知識：スキーマとスクリプト

否定表現はそれに対応する肯定内容が談話のどこかにないと，適切には使用できない。しかし，実際にはその肯定内容が談話上に具体的には存在しない例が多くみられる。その大部分の場合，肯定内容はコンテキストの一部をなす背景知識から生まれる。Yamada（2003：144）に従い，この背景知識をスキーマ（schema）とスクリプト（script）に分けて考えてみる。スキーマは，ある事物に関して通常連想される背景知識全般を指す。

一方，スクリプトは，ある事象に関して連続的に起こると想定される一連の行動ややり取りについての背景知識をいう。スクリプトは，スキーマの一種であると考えられるが，台本のように一続きの行動ややり取りがある点で，スキーマと区別をすることとする。

Tottie（1991：山田 2007：49-50 参照のこと）は，否定発話が談話の中で果たす機能として否認（denial）を認め，さらにそれを二つに分けて論じている。それは明示否認（explicit denial）と暗示否認（implicit denial）で，前者は，内部照応（endophora）にあたり，談話中で明言されたことを否認することを指し，後者は外部照応（exophora）でコンテキストからそうなるであろうと期待されることや推論されることを否認することを示す。前者は，テキスト上のコンテキスト（linguistic textual context）での現象であり，後者は，それを取り巻く状況のコンテキスト（situational context）に依存している。暗示否認は，談話の進行とともにそれを理解するために活性化される背景知識から生まれる。Yamada（2003：113）でも指摘したが，独白（monologue）では対話の相手が眼前に不在なので暗示否認が多くなる。歌詞も独白体の言語使用がほとんどなので同様の傾向がみられる。

(1)　スキーマ

歌詞中に使用される否定表現の多くは，背景にあるスキーマから生じる暗示否認として機能する。本稿のデータ中では 8 曲でその例が見つかったが，ここでは 3 つの例を解説する。最初の例は，苦労を乗り越えた自分の半生を振り返り，容易ではないがこれからも戦い続ける決意を高らかに宣言している歌詞である。引用した第 I 連は，これまで幾多の失敗があり，その代償を払いながらも，その苦境を乗り越えたと謳っている部分である。

6【We Are the Champions, 1977】

Ⅰ　1　I've paid my dues
　　2　Time after time
　　3　I've done my sentence
⇒　4　But committed <u>no</u> crime
　　5　And bad mistakes
　　6　I've made a few
　　7　I've had my share of sand kicked in my face
　　8　But I've come through

1から3行目で，何度となく刑に服して罪を償い，刑期を終えたと語られているので，何らかの罪を犯したのであろうと聞き手は想像するが，4行目で「罪は犯していない」と語っている。これは，1〜3行目の歌詞（1行目“I've paid my dues”「報いを受けてきた」，3行目“I've done my sentence”「刑に服してきた」）から生まれる推測を否認するものである。つまり，普通は「犯罪に関するスキーマ」により，罪を犯したから刑に服すると考えるが，ここでは，刑には服したが，罪は犯していないと否定表現を使い，自分の境遇の不条理さを訴えている。

次の曲は，若くして結婚して働き始めるが思い通りにいかなかった昔をほろ苦い思いで懐かしむ男の歌である。第Ⅲ連は，付き合っていた女性（Mary）を妊娠させてしまい，19歳の時に形だけの粗末な結婚式を上げたことを語っている。

7【The River, 1979】

Ⅲ　1　Then I got Mary pregnant
　　2　And man that was all she wrote
　　3　And for my nineteenth birthday

4 I got a union card and a wedding coat
5 We went down to the courthouse
6 And the judge put it all to rest
⇒ 7 No wedding day smiles, no walk down the aisle
⇒ 8 No flowers, no wedding dress

二人で郡庁舎へ行き結婚する場面が歌われているが，祝福する家族や友達の姿はなく，すべては判事が上手く済ませてくれた。7，8行目にnoを用いた否定表現が集中的に4つ出てくるが，これには「結婚のスキーマ」が関わっている。普通の結婚式につきものの，微笑み，（花嫁が父親に先導されて）教会の中央通路を歩くこと，花，ウエディングドレスがなかったと否定している。これらを否認することで，普通の結婚式ではなく，周りから祝福されることもない寂しい結婚式だったことが強調されていて，この歌の全体的な評価と合致している。この祝福のなさは，次の第Ⅳ連へも引き継がれ，仕事や結婚生活でも不幸が続くことになる。

最後に紹介するのは，待望の夏休みになり，思い切り楽しもうという青春謳歌の歌である。第Ⅲ連では，夜になり，ぼろ車（jalopy）でドライブイン－シアターへ行く場面が描かれているが，その3行目に否定が使われている。

8【Vacation, 1962】
Ⅲ 1 V-A-C-A-T-I-O-N under summer stars
2 Yeah, we'll hop in a jalopy to a drive-in movie
⇒ 3 and never look at the show
4 We're gonna hug and kiss just like this

通常の「映画館のスキーマ」によれば，映画館へは映画観賞のために行くものである。しかし，若者にとってのドライブイン－シアターはそうでは

なく，3行目にあるように映画には目もくれず（強意の never の使用に注目のこと），ハグしたりキスしたりすることが優先されるようだ。青春を謳歌する姿が，否定表現と共にリアルに描写されている。

以上，3つの例を見てきたが，それぞれ不遇な境遇，粗末な結婚式，青春謳歌の姿を描くにあたって，その場面で当然あるべきもの・期待されるべきものがないという事態を否定表現を用いて印象的に描写している。どの否定表現も全体的評価に繋がり，歌詞全体の流れをサポートする役目を果たしていて，重要な情報を提供している。

(2)　スクリプト

スクリプトから生じる否定表現の明確な例は，本稿のデータでは見つからなかった（日本語の歌詞を分析した山田 2013 でも同様であった）。これは，限られた語数で成り立つ歌詞の中では，「連続的に起こると想定される一連の行動ややり取り」の一つ一つを丁寧に描写するスペースがないという事情の為であろう。実際歌詞を分析してみると，物語風に出来事を連続的に描写している例は少なく，歌詞は物語の詳細を丁寧に語るには向いていないと言える。

唯一スクリプトの関与が感じ取れる例を一つ示す。恋人からの便りがなかなか届かず，いつも郵便配達人を待ちわびている女性の心の内を語る歌詞である。第Ⅵ連では，郵便配達人は回って来たが，自分の気分は晴れなかったと嘆いている。

9【Please Mr. Postman, 1961】

Ⅵ　1　So many days you passed me by

　　2　See the tears standin' in my eyes

⇒　3　You <u>didn't</u> stop to make me feel better

　　4　By leavin' me a card or a letter

第Ⅵ連では，これまでほとんど毎日郵便配達員は素通りで，恋人からの便りを配りに立ち寄ることがなかったと述べられている。3 行目の「立ち寄らなかった（didn't stop）」は，「郵便配達のスクリプト」で，通常の配達であれば起こるべき事態（配達の為立ち寄ること）が，ここでは実現していないという落差を示すために否定が使用されていると考えられる。この否定はこの曲中の唯一の使用であり，それだけインパクトのある発話になっている。Yamada（2013：39）では，このような起きないことが，談話上重要な情報を提供する発話を「否定の出来事（negative event）」と呼んだ。郵便配達人が恋人からの便りを配達しに来ないという事実は，この歌詞全体での女性の不安の原因となっている重要な情報で全体的評価に繋がっている。

本節では，否定表現と背景知識の繋がりを，スキーマとスクリプトに分けてみてきた。否定表現の理解には，このような背景知識が不可欠であることがわかる。前節（4.1）ではコントラスト機能について論じたが，否定表現は，このような背景知識とのズレを明示するコントラスト機能を有していると考えることも出来るであろう。

4.3　否定の連続使用

否定の連続使用（negation cluster: Yamada 2003：365）とは，談話中で否定発話が群れをなすように集中して用いられることを指す。一般的に，ある言語形式を繰り返し使うことは，連続の効果（Cheshire 1998：139 の serial effect）を生む。単独の否定表現に比べ，連続使用により評価機能が積み重なり，より大きなインパクトが生まれる。本稿では，（1）1 連中に否定辞が 3 回以上使用され，（2）さらにそれらが一つのテーマに沿った一貫した評価である，という二つの条件を満たす場合を「連続使用」と呼ぶことにする。データ中には，そのような連続使用が 14 例見つかった。以下では，その中の 3 例を紹介する。最初の 2 例は連の最初に，

最後の例では連の最後に現れる。

最初の例は，固定観念を取り払うことにより，世界平和を訴える歌で，歌詞全体で否定表現が重要な情報を伝えている。下記に引用するのは第Ⅱ連であるが，第Ⅰ連でも，“no heaven”（1 行目）と“no hell”（3 行目）という二つの否定表現を用い，宗教的な固定観念からの解放を訴え，それに続く第Ⅱ連でも否定表現が 4 回使用されている。

10【Imagine, 1971】

Ⅱ

⇒　1　Imagine there’s no countries.

⇒　2　It isn’t hard to do.

⇒　3　Nothing to kill or die for,

⇒　4　And no religion too.

　　5　Imagine all the people

　　6　living life in peace...

1，3，4 行目で否定されているのは，争いの原因となるものである。祖国の為に命を賭けた使命感を持ち戦う。また，宗教対立が背景にある戦いもある。そういった原因を捨て去れば，平和な世界の実現に繋がるかもしれないというメッセージである。否定表現を用いて無くなってほしいものを取り立てている。その後，第Ⅳ連でも同様に“no possessions”，“No need for greed or hunger”と否定表現を使い，物欲からの解放，貪欲や飢えのない世界を訴えている。この歌詞では，否定表現が連続して使用され，歌のメッセージをより強力な形で伝える役割を果たし，歌詞の全体的評価に繋がっている。また，2 行目の否定は「難しくはない」と言っているが，現実に存在する「国」を「存在しなければ」（1 行目）と想像するのは難しいという一般的な考えに対し，実際にはそんなことはないという

主張である。

次の歌は，画一的で閉塞的な学校教育への反発を歌ったメッセージ・ソングである。歌詞の冒頭で二重否定の否定表現が繰り返し使用され，聞き手に強い印象を残す。

11【Another Brick in the Wall, 1979】

Ⅰ

⇒ 1 We <u>don't</u> need <u>no</u> education

⇒ 2 We <u>don't</u> need <u>no</u> thought control

⇒ 3 <u>No</u> dark sarcasm in the classroom

4 Teacher, leave them kids alone

5 Hey! Teacher! Leave them kids alone

6 All in all it's just another brick in the wall

7 All in all you're just another brick in the wall

第Ⅰ連の冒頭で連続して，3つの否定表現が現れる。特に最初の2行は，非標準語法である二重否定が連続して使用され，一般庶民（社会の底辺にいる人々）の率直な思いを代弁する叫びとなっている。1行目で学校教育への反発，2行目で思想統制への反発，そして3行目で教師が発するいやみな当てこすりへの反発を表明している。その後，生徒たちを自由にしてほしいと歌うが，最終的には，所詮教育や生徒は「壁の中の一つのレンガ」，つまり取るに足らない存在にすぎないのだと憂いている。全体として，自由を束縛し，画一的な型にはめようとする学校教育への反省を迫る歌で，この連の否定表現は不要なものを指摘する役目を担い，この歌の主要なメッセージと伝える重要な役割を果たしている。

最後に紹介する歌は，「孤独」をテーマに失意に沈む男がたどり着いた心境を語る歌で，最終的に他人との交流を断つことで自分を取り戻そうと

する。前例では，歌詞の冒頭に否定表現が出てきたが，この例では，歌詞の最終連（Ⅳ）の中盤と最後に連続して使用されている。

12【I Am a Rock, 1965】

Ⅳ　1　I have my books
　　2　And my poetry to protect me
　　3　I am shielded in my armor
　　4　Hiding in my room, safe within my womb
⇒　5　I touch <u>no one</u> and <u>no one</u> touches me
　　6　I am a rock
　　7　I am an island
⇒　8　And a rock feels <u>no</u> pain
⇒　9　And an island <u>never</u> cries

1から4行目で，歌い手は自分には本（読書）と詩（創作活動）があり，この鎧に保護され，安全な場所に身を隠していると語る。5行目の否定表現で，他者との接触交流を完全に断ち切ることを宣言し，6，7行目で自分は岩になり島になっていると述べる。そして，その帰結として，最後の8，9行目で苦痛を感ぜず，泣くこともないと主張し，人間としての存在を放棄するに至る。

この歌詞の最終部分（8，9行目）は，ナラティブ分析のコーダ（coda，終結部）にあたり，全体のテーマを総括する結びの役目を果たしていると考えられる。失意に沈む作者の最終決断は，岩と島になることで，そうすれば痛みや苦しみを感じないからという総括的な主張である。それぞれの行の初めの“And”は，前言（6，7行目）を踏まえて，帰結を導く働きがあると考えられる。松尾他（2015：172）は，ANDの用法の一つとして「談話を継続して発展させる機能がある」と述べているが，ここでもそ

のような機能が発揮されている。

実際に曲を聞くと，8 行目からは，それまでの軽快な曲のテンポがゆったりと緩慢になり，歌声も落ち着いた，かみしめるような語り口調に変わる。また，歌い手もサイモンとガーファンクルのデュオ（duo）からサイモンのソロ（solo）となる。否定表現を含む最後の 2 行は，歌全体の総括的な結びとなっていて，重要なメッセージを伝えている。特に最後の 9 行目には，主張の締め括りにふさわしい強意の“never”が使われている。

本稿の分析では，否定の集中使用の例が 14 曲で見つかったが，日本語の歌詞を扱った山田（2013）では 3 曲のみであった。この差の背景には日英両語で否定表現の使用法に顕著な違いがある可能性があるが，今後の課題にしたい。

5. 結　語

本稿では，英語の歌詞に使用された否定表現の特徴を多角的な視点から示した。まず否定表現の使用状況を量的に分析したが，NOT，NO，NEVER が代表的な否定辞で全体の 9 割程の出現率であった。一方，否定辞を含む慣用句はそれほど多くはなく，否定と心理動詞の共起も特に高い傾向はみられなかった。その後は，本論の主眼である否定表現の談話分析の結果を詳説した。まず，データ中に頻繁に観察された否定のコントラスト機能を例証し，次に否定表現の使用を支える背景知識（スキーマとスクリプト）との関連を確認した。最後に否定の連続使用がもたらす評価機能の強化の効果を明らかにした。

英語の歌詞中の否定表現を扱った本稿は，日本語歌詞中の否定表現を分析した山田（2013）と対をなす論考として執筆された。ここでは，この二つの論文の分析結果を比較し，類似点と相違点をまとめる。

（1）類似点：

・否定のコントラスト機能の例が多数観察できた。

・メタ言語否定の明確な実例がなかった。

・否定表現と背景知識との関係性については，スキーマに関わる例は頻繁に見られたが，スクリプトに由来する事例は少なかった。

（2）相違点：

・英語の歌詞では，否定辞を含む慣用句が少なかった（英語の歌詞では 21 例が確認され，全否定表現の中の 5.88％：日本語の歌詞では 37 例あり，全体の 13.65％）。

・英語の歌詞では，否定表現と心理動詞との間には顕著な共起関係は観察されなかった。

・英語の歌詞では，否定の連続使用多く見られた（14 例：日本語の歌詞では 3 例のみ）。

本稿の分析結果を踏まえ，さらに研究を深化させるためには，以下の 4 点が今後の課題となる：

・否定との共起：既述の通り，本稿では心理動詞との共起に顕著な傾向は検証できなかったが，特定の語（NEED や HIDE）や文型（命令文）に共起の傾向が見られた。特に後者は日本語にはあまり見られない現象であるので，日英語比較の観点から検証したい。

・非標準英語の使用：歌詞の一部に非標準英語の特徴（二重否定や AIN’T の使用など）が観察された。敢えて非標準な形式を使う効果を，社会言語学的観点から精査したい。例えば，二重否定の使用は黒人英語に顕著にみられる特徴であると言われるが，そうではない例もある。

・否定の歌：本稿では，否定が特定の連の中で繰り返し使用される否

定の連続使用の例を取り上げたが，そのような現象が歌詞全体で起きている歌（否定の歌［negative song］と呼ぶ）が数曲あった。日本語の歌にもそのような曲はあるが，英語と比較すると少ないようだ。否定を繰り返し使用するのは，英語の表現方法の特徴である可能性があるので，日英語のレトリックの観点から調査したい。

・人物描写：物事の描写には肯定文を使用するのが無標の言語使用であるが，歌詞を見ていくと人物描写に敢えて有標の否定表現を使用し，特別な効果を上げている例が見られた。存在感のない人物，普通とは違う人物などの描写であるが，否定表現による人物描写の特徴とその効果を探りたい。

以上の課題も含め，談話中に実際に用いられる否定表現がどのような談話機能を果たしているのか分析を続け，その全体像にさらに迫りたい。

＊本稿は，拓殖大学言語文化研究所 令和３年度個人研究助成による研究成果である。

《注》

（１） 表２には N'T が 159 例報告されているが，その中には非標準の AIN'T が 11 例含まれている。

（２） 物語の中で使用される否定表現は，通常評価機能（evaluative function）を持つと言われる（Labov 1972）。否定の使用は何かが起こるであろうという期待をくじくという働きがあり，否定表現は起こる可能性はあったが起こらなかった非・出来事（non-events）を表現し，物語の筋道に対する話し手の考え，態度，感情などを表明する評価機能を果たすとされている。この評価機能について，Yamada（2003：239-241）は，物語文の中で物語の要旨に関わる主要なコメントを「全体的評価（global evaluation）」，また物語の背景的な細部に関わる副次的なコメントは「部分的評価（local evaluation）」として二つに区別した。この区別はストーリー性のある歌詞にも適応可能であると著者は考える。

（3）　メタ言語否定の定義については，山田（2004：47-49）を参照のこと。

参考文献

Biber, Douglas, et al. 1999. *Longman Grammar of Spoken and Written English*. Harlow, Essex：Longman.

Cheshire, Jenny. 1998. "English Negation from an Interactional Perspective," *The Sociolinguistics Reader, Vol. 1：Multilingualism and Variation*, ed. by P. Trudgill, and J. Cheshire, 127-144, London：Arnold.

Ford, Cecilia. 1993. *Grammar in Interaction：Adverbial Clauses in American English Conversations,* Cambridge：Cambridge University Press.

Givón, Talmy. 1978. "Negation in Language：Pragmatics, Function, Ontology," *Syntax and Semantics 9：Pragmatics*, ed. by P. Cole, 69-112, New York：Academic Press.

Halliday, M.A.K. 1993. "Quantitative Studies and Probabilities in Grammar." In *Data, Description, Discourse：Papers on the English Language in Honour of John McH Sinclair on his Sixtieth Birthday*, M. Hoey, ed., 1-25, London：HarperCollins.

Horn, Laurence R. 1989. *A Natural History of Negation*, Chicago and London：University of Chicago Press.（第2版，2001）【翻訳】河上誓作（監訳）（2018）『否定の博物誌』東京：ひつじ書房.

加藤泰彦 . 2019.「ホーン『否定の博物誌』の論理」東京：ひつじ書房.

Labov, William. 1972. "The Transformation of Experience in Narrative Syntax," *Language in the Inner City*, 354-396, Philadelphia：University of Pennsylvania Press.

Leech, Geoffrey N. 1983. *Principles of Pragmatics*. London: Longman.

松尾文子，廣瀬浩三，西川眞由美．2015.『英語談話標識用法辞典』東京：研究社.

Mazzon, Gabriella. 2004. *A History of English Negation*. Harlow, UK: Longman.

McCawley, James D. 1993. "Contrastive Negation and Metalinguistic Negation," *CLS 27 Part Two：the Parasession on Negation*, ed. by L. Dobrin, et al., 189-206, Chicago：Chicago Linguistic Society.

Pagano, Adriana Silvina. 1991. *A Pragmatic Study of Negatives in Written Text*, Unpublished MA Dissertation, Florianópolis：Universidade Federal de Santa Catarina.

Tottie, Gunnel. 1991. *Negation in English Speech and Writing：a Study in*

Variation, San Diego：Academic Press.

Yamada, Masamichi. 2003. *The Pragmatics of Negation：Its Functions in Narrative*, Tokyo：Hituzi Syobo Publisher.

山田政通．2004.「メタ言語否定の談話分析」『拓殖大学語学研究』107 号，45-69.

山田政通．2007.「語用論から見た否定の世界：談話機能の視点から」『拓殖大学語学研究』114 号，37-58.

山田政通．2010a.「否定表現の諸相：小説をデータとして」『拓殖大学語学研究』122 号，51-78.

山田政通．2010b.「談話分析から見た否定：談話機能を探る」『否定と言語理論』加藤泰彦，吉村あき子，今西生美（編），378-397，東京：開拓社.

山田政通．2013.「否定表現の談話分析：歌詞をデータとして」『拓殖大学語学研究』128 号，13-47.

【参考辞書】

LDOCE = Longman Dictionary of Contemporary English. 2014（6th ed.）Essex, UK: Pearson Education Limited.

OALD = Oxford Advanced Learner's Dictionary. 2020（10th ed.）Oxford, UK: Oxford University Press.

【歌詞関連の書籍】

1. “Motown 60 Songs”（Hal Leonard, [year of publication unknown], Hal Leonard Corporation）
2. 『ロックの心 1』（アラン・ローゼン＆福田昇八，1982 年，大修館）
『ロックの心 2』（アラン・ローゼン＆福田昇八，1983 年，大修館）
『ロックの心 3』（アラン・ローゼン＆福田昇八，1985 年，大修館）
5. 『ビートルズの心』（福田昇八＆アラン・ローゼン，1986 年，大修館）
6. 『アメリカン・ポップスの心』（芳賀修栄，2002 年，大修館）
7. 『英語で歌おう！：ポップスの名曲からマザーグースまで』（柏木厚子，2010 年，アルク）
8. 『英語で歌おう！スーパースター編』（アルク英語出版編集部，2002 年，アルク）
9. 『英語で歌おう！映画主題歌編』（アルク英語出版編集部，2002 年，アルク）
10. 『英語で歌おう！ポップス編』（アルク英語出版第 1 編集部，2000 年，アルク）

11. 『英語で歌おう！女性ボーカル編』（アルク英語出版第 1 編集部，2001 年，アルク）
12. “Rock'n' English: American Rock”（桑形松夫，1995 年，ミニワールド）
13. 『英語の歌』（河野一郎，1991 年，岩波書店：岩波ジュニア新書 185）

【歌詞関連の主な URL】（＊は特によく参考にしたサイト）

1＊https://www.lyrics.com/
2　https://www.lyricsfreak.com/
3　https://www.lyrics007.com/
4＊https://www.songfacts.com/
5　https://www.stlyrics.com/

【資料】英語歌詞選曲リスト：100 曲

［歌のタイトル（発表年）作詞・作曲者 : アーティスト］

1 ABC（1970）B. Gordy Jr. & others: The Jackson Five
2 Africa（1982）D. Paich & J. Porcaro: Toto
3 A Hard Day's Night（1964）J. Lennon & P. McCartney: The Beatles
4 America（1968）P. Simon: Simon and Garfunkel
5 American Pie（1971）D. McLean: Don McLean, Madonna（2000）
6 And I Love Her（1964）J. Lennon & P. McCartney, The Beatles
7 Another Brick in the Wall（1979）R. Walters: Pink Floyd
8 Aquarius（1967）R. James, G.M. Dermot & G. Ragni: The 5th Dimension
9 Arthur's Theme（Best That You Can Do）（1981）B. Bacharach & others: Christopher Cross
10 Beautiful Sunday（1972）D. Boone & R. McQueen: Daniel Boone
11 Bohemian Rhapsody（1975）F. Mercury: Queen
12 Born in the U.S.A.（1984）B. Springsteen: Bruce Springsteen
13 Born to Be Wild（1968）M. Bonfire: Steppenwolf
14 Born to Run（1975）B. Springsteen: Bruce Springsteen
15（The）Boxer（1968）P. Simon: Simon and Garfunkel
16 Bridge Over Troubled Water（1969）P. Simon: Simon and Garfunkel
17 California Dreamin'（1965&1970）J.E. Phillips & M. Phillips: The Mamas & The Papas
18 Complicated（2002）A. Lavigne & others: Avril Lavigne

19 Copacabana (1978) B. Sussman & J. Feldman: Barry Manillow
20 Daydream Believer (1967) J. Stewart: The Monkeys
21 Desperado (1973) G. Frey & D. Henley: The Eagles
22 Don't Cry Out Loud (1976) C.B. Sager & P. Allen: Rita Coolidge
23 Eleanor Rugby (1966) J. Lennon & P. McCartney: The Beatles
24 Endless Love (1981) L. Richie: Lionel Richie
25 Everybody's Talkin' (1967) F. Neil: Harry Nilsson
26 Every Breath You Take (1983) Sting: Police
27 Fifty Ways to Leave Your Lover (1975) P. Simon: Paul Simon
28 Girls Just Want to Have Fun (1984) R. Hazard: Cyndi Lauper
29 Have You Ever Seen The Rain (1970) J.C. Fogerty: C.C.R. (Creedence Clearwater Revival)
30 Have You Never Been Mellow (1975) J. Farrar: Olivia Newton-John
31 Help! (1965) J. Lennon & P. McCartney: The Beatles
32 Hey Jude (1968) J. Lennon & P. McCartney: The Beatles
33 Hey Paula (1962) R. Hildebrand: Paul and Paula
34 Homeward Bound (1965) P. Simon: Simon and Garfunkel
35 Honesty (1978) B. Joel: Billy Joel
36 Hotel California (1976) D. Felder & others: The Eagles
37 (The) House of The Rising Sun (1964) Traditional, arranged by A. Price: The Animals
38 How Deep Is Your Love (1977) B. Gibbs & others: The Bee Gees
39 I Am a Rock (1965) P. Simon: Simon and Garfunkel
40 I Just Called to Say I Love You (1984) S. Wonder: Stevie Wonder
41 Imagine 1971 J. Lennon: The Beatles
42 I'm in the Mood for Dancing (1979) B. Findon & others: The Nolans
43 Isn't She Lovely (1976) S. Wonder: Stevie Wonder
44 Just the Way You Are (1977) B. Joel: Billy Joel
45 Last Christmas (1984) G. Michael: Wham!
46 Let It Be (1970) J. Lennon & P. McCartney: The Beatles
47 Like a Virgin (1984) B. Steinberg & T. Kelly: Madonna
48 Living for the City (1973, renewed 2001) S. Wonder: Stevie Wonder
49 (The) Loco-motion (1962) C. King & G. Goffin: Little Eva
50 Material Girl (1984) P. Brown & R. Rans: Madonna
51 Melody Fair (1969) B. Gibbs & others: The Bee Gees

52 Mrs. Robinson (1968) P. Simon: Simon and Garfunkel
53 My Heart Will Go On (1997) J. Homer & W. Jennings: Celine Dion
54 Nowhere Man (1965) J. Lennon & P. McCartney: The Beatles
55 Old Friends (1968) P. Simon: Simon and Garfunkel
56 One More Night (1985) P. Collins: Phil Collins
57 Open Arms (1981) S. Perry & J. Cain: Journey
58 Papa Don't Preach (1986) B. Elliot: Madonna
59 Piano Man (1973) B. Joel: Billy Joel
60 Please Mr. Postman (1961, renewed 1989) R. Bateman & others: The Marvelettes
61 Please Please Me (1962) J. Lennon & P. McCartney: The Beatles
62 (The) Power of Love (1985) J. Cola & others: Huey Lewis and The News
63 (The) River (1979) B. Springsteen: Bruce Springsteen
64 Sailing (1972) G. Sutherland: Rod Stewart
65 (I Can't Get No) Satisfaction (1965) M. Jagger & K. Richard: The Rolling Stones
66 Saturday Night (1973) B. Martin & P. Coulter: Bay City Rollers
67 Scarborough Fair (1966&1967) P. Simon: Simon and Garfunkel
68 She's Leaving Home (1967) J. Lennon & P. McCartney: The Beatles
69 Signed, Sealed, Delivered I'm Yours (1970, renewed 1998) S. Wonder & others: Stevie Wonder
70 Sing (1971) J. Raposo: The Carpenters
71 Sir Duke (1976, renewed 2004) S. Wonder: Stevie Wonder
72 (The) Sound of Silence (1964) P. Simon: Simon and Garfunkel
73 Stand by Me (1961) B.E. King & others: Ben E. King
74 Still Crazy After All These Years (1975) P. Simon: Paul Simon
75 Stop! In the Name of Love (1965, renewed 1993) L. Dozier & others: The Supremes
76 Sunshine on My Shoulders (1971) J. Denver & others: John Denver
77 Superstition (1972, renewed 2000) S. Wonder: Stevie Wonder
78 Surfin' U.S.A. (1963) B. Wilson & C. Berry: The Beach Boys
79 Take It Easy (1972) J. Brown & G. Frey: The Eagles
80 Take Me Home, Country Roads (1971) B. Danoff & others: John Denver
81 That's What Friends Are For (1982) C.B. Sager & B. Bacharach: Dionne Warwick (Dionne & Friends)

82 Theme from Mahogany (Do You Know Where You're Going To) (1975) M. Masser & G. Goffin: Diana Ross
83 Three Times a Lady (1978) L. Richie: Lionel Richie
84 Thriller (1982) R. Temperton: Michael Jackson
85 Time After Time (1984) R. Hyman & C. Lauper: Cyndi Lauper
86 Top of the World (1972) J. Bettis & R. Carpenter: The Carpenters
87 Up Where We Belong (1982) W. Jennings & others: Joe Cocker & Jennifer Warnes
88 Vacation (1962) H. Hunter & others: Connie Francis
89 (The) Way We Were (1973) A. & M. Bergman, M. Hamlisch: Barbra Streisand
90 We Are the Champions (1977) F. Mercury: Queen
91 We're All Alone (1976) B. Scaggs: Boz Scaggs
92 Woman (1980) J. Lennon: John Lennon
93 Yellow Submarine (1966) J. Lennon & P. McCartney: The Beatles
94 Yesterday (1965) J. Lennon & P. McCartney: The Beatles
95 Yesterday Once More (1973) R. Carpenter & J. Bettis: The Carpenters
96 Y.M.C.A. (1978) J. Morall & others: Village People
97 You Are the Sunshine of My Life (1972, renewed 2000) S. Wonder: Stevie Wonder
98 You Light Up My Life (1976) J. Brooks: Debby Boone
99 Your Song (1969) B. Taupin & E. John: Elton John
100 You've Got a Friend (1971) C. King: James Taylor

年代別曲数

1960 年代	34 曲
1970 年代	45 曲
1980 年代	19 曲
1990 年代	1 曲
2000 年代	1 曲
計	100 曲

（原稿受付　2022 年 10 月 25 日）